

多彩な人材の参画による学校の教育力向上 ～補習等のための指導員等派遣事業～

平成30年度予算額:48億円 対前年度+2億円

多彩な人材がサポートスタッフとして学校の教育活動に参画する取組を支援

公立学校の教育活動として実施する下記のような取組を行うサポートスタッフ(非常勤)の配置に要する費用の1/3以内を補助

学力向上を目的とした学校教育活動支援

平成30年度予算額(案):31億円<7,700人>

児童生徒一人一人にあつたきめ細かな対応を実現するため、教員に加えて学校教育活動を支援する人材の配置を支援。

【当該分野に知見のある人材】(退職教職員や教員志望の大学生など)

児童生徒の学習サポート

- 補習や発展的な学習への対応
- 外国人児童生徒等の学力向上への取組



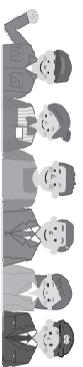
学校生活適応への支援

- 不登校・中途退学への対応
- いじめへの対応



進路指導・キャリア教育

- キャリア教育支援
- 就職支援



その他(教員の指導力向上等)

- 校長経験者による若手教員への授業指導
- 子供の体験活動の実施への支援

(実施主体)都道府県・指定都市 (補助割合)国1/3、都道府県・指定都市2/3

スクール・サポートスタッフの配置

平成30年度予算額(案):12億円<3,000人>

教員がより児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備し、教員の負担軽減を図るため、学習プリント等の印刷などを教員に代わって行うサポートスタッフの配置を支援。

【地域の人材】(卒業生の保護者など)

※教員の負担軽減を図るための事業として実施。各自治体において明確な成果目標を設定し、効果の検証を含めて実施するものに対し、補助を行う。

(実施主体)都道府県・指定都市 (補助割合)国1/3、都道府県・指定都市2/3

中学校における部活動指導員の配置

平成30年度予算額(案):5億円<4,500人>

適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進めている教育委員会を対象※1に部活動指導員※2の配置を支援。

【指導する部活動に係る専門的な知識・技能を有する人材】

※1 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン(仮称)」を遵守するとともに、教員の負担軽減の状況を適切に把握するなど、一定の要件を満たす学校設置者に対して、支援を行う。

※2 学校教育法施行規則第78条の2に該当する者

(実施主体)学校設置者(主に市町村) (補助割合)国1/3、都道府県1/3、市町村1/3 (指定都市:国1/3、指定都市2/3)

「チーム学校」の理念を踏まえ、教員と多様な人材の連携により、学校教育活動の充実と「働き方改革」を実現

武道授業

実践の概要紹介

新十津川町立新十津川中学校における

新十津川町教育委員会

武道授業 (剣道) の実践紹介

新十津川町は北海道の空知地方中部に位置し、人口は約6800人の町である。

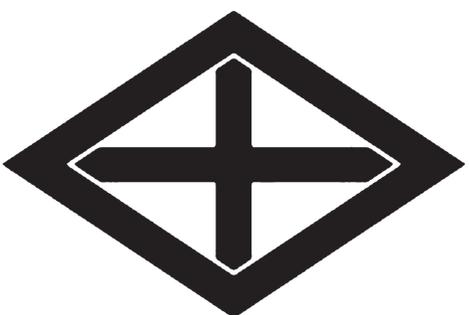
本町は明治22年8月、奈良県十津川村を襲った大水害を機に600戸2600人が新天地を求め北海道へ集団移住したことにより誕生する。

移住者達の思想背景には、勤皇尚武の志厚く文武の気風を尊ぶ十津川魂が流れており、「我、北門の鎖鑰とやらん」の気概を持って北海道に向かった。

先人たちは子弟への教育を最優先に考え、入植と同時に学校建設に着手、そして青年団活動の場として、また剣道を行う場所として地域の人達の手によって演武場が建てられ剣道が推奨された、とある。

現在、町には剣道連盟(新十津川尚武会)の会員が約50名在籍し、少年団活動や部活動についても盛んに取り組む、各種大会において輝かしい成績を収めてきた。

また武道必修化に伴い、中学校の剣道授業を通して、より一層剣道の普及と、剣道指導を通しての人間形成に力を注いでいるところである。



新十津川町の町章「菱十」

資料 剣道の単元指導計画

	1 2	3 4	5 6	7 8
第1学年	・オリエンテーション ・礼法 ・足さばき鬼ごっこ ・竹刀の扱い方 ・素振り ・新聞紙切り	・着装の仕方 (垂れ、胴、面、 面手ぬぐい、小手) ・打突の練習 (竹刀打ち)	・打突の練習① (実際の部位を 送り足で打つ) ・打突の練習② (踏み込み足での面、 小手、胴) ・有効打突の条件	・打突の練習 (踏み込み足での面、 小手、胴) ・基本判定試合
第2学年	・オリエンテーション ・礼法 ・足さばき ・竹刀の扱い方 ・素振り	・着装の仕方 (垂れ、胴、面、 面手ぬぐい、小手) ・打突の練習 (竹刀打ち)	・仕掛け技 (払い面、払い小手、 引き面、引き胴) ・応じ技 (面抜き胴、 小手抜き面)	・試合練習
第3学年	・オリエンテーション ・礼法・足さばき ・素振り・着装 ・打突の練習 (小さく速く、面、 小手、胴)	・仕掛け技 (払い面、払い小手、 引き面、引き胴) ・応じ技 (面抜き胴、 小手抜き面)	・互角稽古 ・試合の方法の確認	・打突の練習 (既習の技) ・紅白試合

そこで、本校の授業においては、1学年では剣道の動きを用いたゲームや遊びを取り入れるなど、剣道に親しみ易いように内容を工夫し、興味を持たせながら基本技能の習得を目指している。1学年の最後には修得した技能を披露することで相手と競い合う基本判定試合を行っている。

2、3学年に進むにつれ、剣道の持つ特性や対人的技能を詳しく盛り込み、生徒は修得した技能を活用して、最終的に一対一で相手と試合をするという段階まで到達できるように指導している。3学年になると、試合や互角稽古の中で、仕掛け技や応じ技を積極的に繰り返し出し、一対一で戦うことの楽しさや、技が決まった時の嬉しさなどを味わう場面が多く見られた。

また3年間を通して、礼儀に対する指導を徹底し、相手に対する礼、道具や場所に対する礼、指導する先生に対する礼など、剣道授業を通して、挨拶の大切さや相手

授業実践



新十津川町立新十津川中学校

本町は剣道が盛んな町であり、長い歴史と伝統を今も引き継いでいる。武道必修化に伴い、中学校には保健体育の教師に剣道経験者がいることから、武道の授業を剣道とし、年間指導計画に位置づけている。年間8時間行い、3年間で24時間の学習となる。地元の剣道有段者も剣道講師として招聘している。

平成25年度に、町の道場兼中学校武道場として新しい剣道場が建てられ、授業や部活動、少年団活動全てがここで行われている。

広さは剣道場2面分、床にはワックスを掛けず、摩擦が少ないため、足の裏の負担が少なく、アキレス腱断裂などの大きな怪我も無く安全に剣道ができる環境である。中学校から少し離れた場所にあるため、毎時間スクールバスで

移動し授業を行っている。

(1) 学校体育における武道
武道必修化となった意図の一つとして、全日本剣道連盟制定の剣道の理念「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」を踏まえ、学校教育において剣道の持つ教育的な特性を生かした教育が求められていることが考えられる。

実際のところ、日本の伝統文化である武道の一つである剣道の特性や内容を、授業でどこまで取り扱うかということが課題として挙げられる。3年間の剣道授業を通して最終的な目標をどう置くかが重要である。

生徒にとつての剣道のイメージとして「格好良い」「やってみた」「楽しそう」などの積極的なものと、「痛い」「臭い」「厳しい」などの消極的なものの両方がある。しかし、中学生にとつては、後者のイメージの方が強いのが現状である。



武道場フロア



新十津川尚武館 兼 中学校武道場



新聞紙切りの様子



「基本判定試合」
1学年の学習のまとめに、自分の習得した打突を披露し、有効打突の条件をより満たしている方の勝利という形式で試合を行った。審判についても生徒達で行い、仲間の技能を観察し評価する場面を作った。前時に有効打突の条件を簡略化したもの(※)を説明し、その3条件のうち、1条件につき1人の審判を置き、3人の審判で試合者の打突を判定した。勝敗は

本町においては剣道に取り組み環境が整っており、指導者も多く充実した指導体制で授業を展開することができるため、3年間の授業で、多くのことを指導することができる。その反面、経験者が思う剣道の本質のみを伝えようと、「剣道授業」ではなく「剣道修行」になり、生徒にとって難しく感じたり、厳しく感じたりしてしまい、消極的になってしまうことが懸念される。

体育教師が剣道経験者であるからこそ、剣道に対する概念を幅広く持ち、工夫しながら指導することが重要であると考える。ゲーム的な活動から取り組み始めるものの、最終的には剣道の特性に触れ、技ができることの嬉しさや、勝負の厳しさや達成感を伝えるとともに、礼儀作法や、相手のことを考え思いやる心を育成し、それを学校生活で生かしていけるよう今後も実践していかなければならないと考える。

2 成果と課題

- ※有効打突の条件を簡略化したもの
- 条件① 大きな声が出ているか
 - 条件② 正しい場所を打っているか
 - 条件③ 最後まで相手から目を離していないか

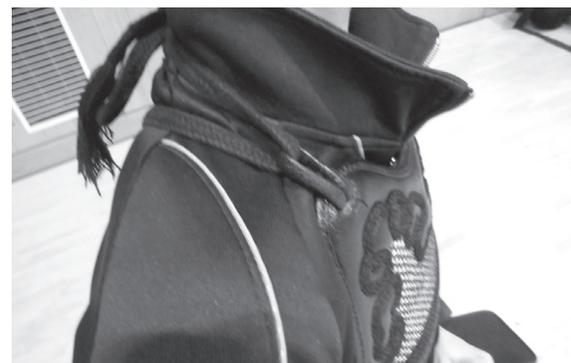
3条件のうち、2条件以上獲得した方が勝利となる。試合者は当然勝利を目指すため、より一層有効

打突の条件を意識して打突をすることができている方法である。

に対する感謝の気持ちを持たせ、それを日常生活に生かせるようになることを期待している。
今回は本校の授業内容や配慮事項の一部を紹介する。
(2)学習の工夫
・着装の工夫
剣道の授業において、大きく時間がかるのが着装である。紐の結び方などを一つ一つ指導しているとかかなりの時間を浪費し、運動時間の確保に支障をきたしてしまいうため、できる限り簡易的に着装できるように工夫をしている。
面紐は絡まることが無いようにホースで固定し、胴紐については胸乳革で結ぶのではなく、両方の胸乳革に通したあと、首の後ろで結ぶようにしている。こうすることによって、簡単に結ぶことができ、後からほどけることが少なくなる。また、ほどけたとしても簡単に結びなおすことができる。
しかしながら、面紐については生徒自身でほどけないように強く



ホースで固定した面紐



胴紐 (胸乳革を通す)



胴紐 (首の後ろで結ぶ)

結ぶことは難しいため、教師が結びようにした。体育教師2名と剣道講師1名の3名で、30名程度の生徒の面紐を結んでいるのが現状である。もし教師が1名の体制ならば難しいところである。
・楽しみながら技能を習得するための工夫
「足さばき鬼ごっこ」
鬼ごっこのルールは同じであるが、移動はすべて送り足で行うと

いうものである。この運動を行うと、足の速い遅いは関係が無く、送り足が前後左右にスムーズにできる生徒が勝つため、一層正しい足さばきを習得しようと努力をする。
「新聞紙切り」
上下素振りのポイントを押さえ素振りができるかを確認するために、新聞紙を竹刀で切るという活動を行っている(次頁写真

参照)。上手くいけば、新聞紙の折り目に沿ってきれいに2つに切ることができ、生徒達はとても達成感を味わうことができる。上手く切るポイントは「真っ直ぐ振り下ろす」「素早く振り下ろす」「竹刀の打突部で切る」ことである。生徒達は、新聞紙が切れないと、自身の素振りの軌道やスピードを確認し、新聞紙が切れるまで何度も挑戦し、とても積極的に活動できる方法である。